

富医ニュース

No.603 令和3年12月1日

一般社団法人 富田林医師会
〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38
TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858
E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

(大阪府済生会富田林病院が グランドオープン)

令和3年11月22日、大阪府済生会富田林病院はグランドオープンを迎えました。

新病院は「利用者しやすい病院」・「地域とつながる病院」・「災害・救急に強い病院」として、より質の高い総合的な医療サービスの提供を行えるよう建設を進めてまいりました。昨年の11月には第1期工事部分である病院本館が完成しすでに新病院として稼働してまいりました。この度、第2期工事が終了し健診センターの移転も完了することで、その機能をすべて発揮する体制が整いました。また、同時に約200名を収容できる講堂も完成し、今後、地域に向けた医療講演会等のイベントも充実させ、医師会員様との医療連携の強化を図るとともに、地域住民の方へのさまざまな情報発信を行って参りたいと考えております。

新病院建設工事中は何かとご迷惑、ご不便をお掛けしましたが、富田林病院を中心に大阪府済生会富田林医療福祉センターの各施設が、会員の皆様や地域コミュニティとの連携をより強化して、地域の医療・介護・福祉などあらゆる場面において、地域に安心を提供できる病院として、より一層その役割を果たしてまいります。

新しく生まれ変わった大阪府済生会富田林病院をこれからもよろしくお願ひ申し上げます。

大阪府済生会富田林病院
病院長 宮崎 俊一



令和3年11月 定例理事会

日時 令和3年11月12日(金) 20:30より
場所 医師会 大会議室

会長代行挨拶

報告事項

- 1) コロナウイルスワクチンの3回目接種に関して
- 2) ニューキノロン併用可 整腸剤 リスト追加
(休日診療委員会)
- 3) ブースター接種の件
- 4) オゾン問題に関する市役所からの返答書について
- 5) 医師会駐車場の現状復帰について
- 6) 南河内北部の南部広域小児急病診療事業への参加の意向について
- 7) 令和3年度あすか会 11/13 スイスホテル南海大阪
藤岡洋先生・藤岡雅司先生・児島先生
- 8) 令和3年度第1回太子町防災会議
12/1 水曜日午後 → 児島先生
- 9) 南河内医療・病床懇話会委員(南河内保健医療協議会委員と兼任) 令和4年3/31まで → 藤岡洋先生

協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 救急災害ベストについて
- 3) 医師会事務局の年末年始の休業について
(12月28日(火)午後から1月4日(火)まで休み)

富田林医師会学術講演会

座学講習会・WEB講習会(ZOOM)

日時 2021年12月16日(木) 14:00~15:00

会場 会場参加: 富田林医師会 研修室

WEB参加: 別紙参照

座長 くにさだ医院 國定 慶太 先生

演者 大阪府済生会富田林病院

循環器内科 部長 谷口 貢 先生

「日常生活、前より辛くないですか?

～息切れにひそむ肺高血圧症～」

肺高血圧症(以下、Pulmonary Hypertension略:PH)と聞いて「不治の病」と感じられることが多いのではないのでしょうか? 特発性肺動脈性肺高血圧症で未治療の場合は、診断からの予後は「2.8年」と報告されています。しかし近年、早期診断から治療の進歩により、その予後は改善されています。PH患者さんを適切に治療するためには、正確に病態を把握することも必要となり、そのために必要な診断・検査や基準などを明確にしておくことも大切です。

当院においては、PHの鑑別検査、PH診療の工夫、PH検査のタイミング、症状、診断において専門施設と連携するタイミングなどの基準も明確にしております。

日々の診療で「息切れ、胸痛」など非特異的な症状を訴えるような患者さんにおいてもPHの疑いも含めて、一つでも該当するような所見があれば躊躇せず、専門の施設（専門医）と相談・連携することが必要です。専門医だけでは救えない疾患においても地元の先生方の目が早期発見・治療介入に繋がります。

※本講演は、日本医師会生涯教育1単位 カリキュラムコード「31めまい、32意識障害」を申請中です。会場参加の方は生涯教育チケットをご持参ください。

富田林循環器疾患懇話会

日時：2021年12月9日（木） 18:00～19:40

会場：医師会 大会議室 Web配信あり

★一般公演

座長 中村・みなみクリニック 中村 元 先生
 演者 済生会 富田林病院 循環器内科 医長 山本 広之 先生
 「当院における紹介患者の症例報告」

★特別講演

座長 済生会 富田林病院 循環器内科 部長 谷口 貢 先生
 演者 近畿大学医学部 循環器内科 医学部 講師 高瀬 徹 先生
 「当院における心不全治療 ～糖尿病合併例を踏まえて～」



専門医より一言

「当院におけるIBD診療の実際
 ～地域医療連携を考える～」
 近畿大学医学部消化器内科
 米田 頼晃 先生

炎症性腸疾患（IBD）は主に潰瘍性大腸炎（UC）とクローン病（CD）を指しますが、当院ではUCは約600人、CDは約200の方が通院されています。治療はステロイド・免疫調整剤に加えて複数の5ASA製剤、生物学的製剤、血球成分除去療法等もあり、ここ10年で治療の選択肢が急激に増えました。

そこで治療法を選択する際は共有意思決定（SDM）が重要です。患者さんとしっかり話し合っ、その上で何を選択するかを決めて行かなければなりません。IBD診療には消化器外科、小児科、皮膚科の協力が必要不可欠であるだけでなく、看護師・薬剤師・栄養士・地域連携室のスタッフ・ソーシャルワーカーの連携も重要です。

今後のIBD医療を考えると、増加の一途のIBD患者を対応していくなかで、多くの専門施設がキャパシティの限界に近いものと思われ、それを改善するには地域連携ネットワークが急務です。

軽症の症例は診療所で、中等症から重症の活動性の高い症例は大学病院でといった具合に、診療所と病院のしっかりとした役割分担と連携関係が構築されるような環境が理想と考えています。病院機関では、重症例、ステロイド抵抗例・依存例（難治例）、頻回の再燃例、小腸バルーン・カプセル内視鏡などの特殊検査必要例などについては、専門施設での対応がよいと思われ、治療のタイミングを逃さないことが大切です。一旦病勢が落ち着き寛解状態になれば、若年層に多いIBD患者さんを診療所で経過観察頂くことが患者にとって大きなメリットです。

診療所の先生方と上下関係のないフラットで顔の見える関係、事例を相談できる信頼関係が構築できればと思っております。

調整日

11月分
 12月8日（水）
 PM3：00まで

12月分
 1月6日（木）
 PM3：00まで

12月の予定

8日（水）・調整日
 9日（木）・富田林循環器疾患懇話会
 10日（金）・理事会（20:30～）
 16日（木）・学術講演会（WEB・座学）
 20日（月）・訪問看護ステーション
 運営委員会
 21日（火）・広報調査委員会
 23日（木）・広報調査委員会（校正）
 28日（火）・午後～1月4日（火）
 事務局休務

11月行事・会合

2日（火）・休日診療委員会
 8日（月）・調整日
 12日（金）・理事会（20:30～）
 15日（月）・訪問看護ステーション
 運営委員会
 16日（火）・学校医部会（ZOOM）
 14時～15時
 18日（木）・学術講演会
 （座学・WEB ZOOM）
 22日（月）・広報調査委員会
 26日（金）・広報調査委員会（校正）
 30日（火）・感染症対策委員会（ZOOM）
 13:30～14:30
 ・休日診療委員会

○会員数（12月1日現在） 181名

A会員 94名 B会員 87名

○入会 なし

○退会 なし

○異動 なし

広報調査委員会

委員長	齊藤 謙介	副委員長	森井 秀樹
委員	青山 賢治	天城 完二	今城 幸裕
	植村 匡志	江村 俊也	奥野 敦史
	尾多賀雅哉	遠山 佳樹	中村 元
	藤岡 洋	山本 善哉	山本 秀文